



新潟県ソウル事務所発 韓国レポート



2020.7.29

<第 26 回レポート>

【ソウル事務所赴任記②】新型コロナウイルス対策のため、近いのに遠い国に！ ～ 隔離場所での日々 ～

今回は、韓国に向けて出発し無事隔離場所まで到着した状況をお伝えしましたが、今回は日々の隔離生活で気づいたことなどをお伝えします。

7月16日夕方、ソウル市指定の隔離場所となるホテルに到着し、部屋から2週間出られない生活が始まりました。ちなみに宿泊費は3食付きで1日10万ウォン(日本円で約9千円。場所によっては最大15万ウォン、日本円で約1万3千円とのこと)です。

期間中は1日2回、ホテルで借り受けた体温計で体温を測り、空港でダウンロード済みの自宅隔離者安全保護アプリに健康状態を入力して送信すると管轄の保健所に届くようになっています(送信を怠ると連絡が来るようです)。

また、2日ほど経って、保健所からコロナ対策キット一式が配付されました。マスクや消毒スプレー、アルコールジェルなどが入っています。

自己診断	
熱(37.5℃以上)または発熱感	
はい	<input checked="" type="radio"/> いいえ
体温: 36.40℃	
咳(Cough)	
はい	<input checked="" type="radio"/> いいえ
咽喉痛(喉の痛み)(Sore Throat)	
はい	<input checked="" type="radio"/> いいえ
呼吸困難(息苦しさ)(Dyspnea)	
はい	<input checked="" type="radio"/> いいえ
特異事項	



(写真)左:アプリ入力例
右:対策キット一式

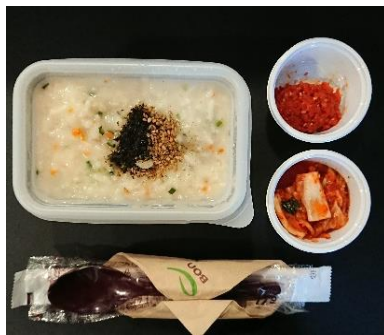
PCR検査の結果も保健所に問い合わせた結果、無事陰性であったことが判明し、あとは7月30日の隔離期間解除まで、体調に留意しつつ部屋で過ごします。

食事は、到着日の夕食から弁当が配付され、毎食部屋の前に置き配されます。メニューは基本的に、朝食はサンドイッチもしくはお粥、昼食・夕食はごはんを中心に定食的なメニューですが、五穀米のような黒米ごはんやビビンバ、カレーも登場し、バラエティ豊かです。

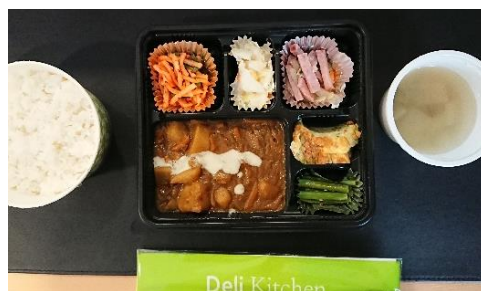
今回弁当を供給している業者のホームページを見ると、昼・夕食は金額的には1食700円程度と推定され、日本の相場からみても少し高価なものですが、冷凍・インスタント食品を避け、無農薬や新鮮な材料を使うなど健康志向を強調しています。以前、県内企業が韓国企業と合併で高級弁当専門店を開設した例もありましたが、韓国の弁当の質は確実にレベルアップしていることを実感しました。



(写真)置き配の弁当
(右の白い筒はゴミ箱)



(写真)弁当の例 1 左:サンドイッチ(朝食) 中:お粥(朝食) 右:黒米ごはん(昼食)



(写真)弁当の例 2
左:ビビンパ(昼食)
右:カレー(夕食)

このように毎食弁当では当然、部屋に弁当ガラがたまりません。私は残しませんでしたが、ごはんやおかずを残す人もいます。

そこで、このホテルでは四日に一度、ごみを回収してくれます。部屋の中にはごみの捨て方の案内も貼付されており、生ごみは水気を切って専用のごみ袋に、弁当ガラは軽く洗って重ねるなど、かさばらないように工夫して、専用のごみ箱に入れ、密封した上で決められた時間に部屋の前に出すことになっています。

韓国では 1980 年代末からごみ問題が社会問題化し、90 年代にはホテルでの歯ブラシやスーパーでのレジ袋などの使い捨て用品の無料配布を順次禁止する法律が制定され、家庭等の生活ごみ処理の有料化が全国的に導入されるなど、日本よりも徹底している部分もありました。今回のごみの捨て方も、こうした流れが背景にあるものと理解できます。



(写真)左:ごみの捨て方の案内 中:案内に従い弁当ガラを整理 右:専用のごみ箱に入れて排出

また、期間中、スマホの緊急速報エリアメールが日に 1~2 回入ってきます。日本では頻りに鳴らないものですが、こちらでは緊急速報エリアメールを使ってコロナ関連情報が入ってきます。中には、「〇月〇日から〇日の間に、××市◇◇の△△ビルに訪問した人は、症状がなくともコロナの診断検査(PCR検査と思われます)を受けるように」との具体的な緊急情報もあります。また、コロナ感染者については、名前こそ伏せられるものの、行動に関する情報が自治体のホームページで公開されるなど、対策の徹底ぶりがうかがえます。

隔離場所では、洗濯も当然部屋にて自力で行わなければなりませんし、酒・タバコの持込みも禁止です。一歩も部屋から出られない極めて健康志向(?)な生活を経て、7月30日によやく解放され、今度こそ本当の意味で韓国に入国し、ソウル事務所に着任できることとなります。

近いのに時間がかかる遠い国、韓国への入国まで 14 日間。新型コロナウイルス感染症対策のほんの一部にすぎないですが、査証を申請すれば(ただし、観光目的では極めて困難と推測されますが)入国そのものは可能にしている一方、入国後の対策もこのように徹底しているということをもまさに体感した次第です。

今回の入国にあたり、空港での検疫等、水際対策に従事している関係者、保健所等の医療従事者、ホテル従業員等、対応にあたっている皆様に感謝申し上げたいと思います。まだ時間はかかるのですが、新型コロナウイルス感染症が収束に向かうことを願ってやみません。